

はい！元気です



大崎町食生活改善推進員

大崎町食生活改善推進員は、豊かな感性と知性と経験が1人ひとりの力となり結集され、『私達の健康は私達の手で』をスローガンに、会員数32名で食を通した健康づくりのボランティア活動を行っています。また、平成24年度から新たに男性会員が2名加入したことにより、幅広く地域住民に対し、生涯を通じた食育の推進、健康づくりの担い手としての活躍がますます広がっていくことが期待されます。なお、食生活改善推進員は、我が家の食卓を充実させ、地域の健康づくりを行うことから出発しており、『食生活を改善する人』を意味します。



会長

古一 裕子

体に優しく、心豊かな食生活のお手伝いをさせてもらっています。また、毎月の定例会では地元食材をふんだんに使い、減塩や子どもたちの噛む力を引き出すレシピ作りなどの勉強会を楽しく頑張っています。また、去年は、町内の幼稚園・保育園(所)で歯に優しいおやつレシピの提案と試食会や、『脳卒中予防事業』の一環で町内企業へ出向き減塩レシピの普及活動を行いました。一緒に活動して下さる会員も募集中です。



特命！カメラマン

ふるさとの風景を激写せよ！

No. 48 社会教育課 生涯学習係 本松 健一郎
生涯学習に関することを担当しています。

～大崎町の早期水稲のあゆみ～

早期水稲栽培が始まったのは、昭和28年のことでした。菱田で試験的に始まり、当時は、約6アールだったようです。翌年には、横瀬でも行われ、町内に広まりました。早期栽培が広まると、同じ水田で1年に2回米を作る『二期作』が主流となり、農家の収穫量は2倍になりましたが、国の減反政策により二期作をする農家はなくなりました。写真は、益丸から天子ヶ丘住宅方面に広がる水田で、戦国時代、竜相城をめぐる肝付氏と申間島津軍の戦場にもなった場所です。今ではすっかり綺麗に舗装された通学路。小・中学校時代、わだちでぬかるんでいたところが懐かしいです。

